

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名：南薩地域振興局農林水産部農政普及課

課題名① 南薩地域の茶業経営の安定とブランド化による稼ぐ力の向上						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等
		適當	概ね適當	要改善		
課題の設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	4	2	0	・有機栽培の確立が重要である	・管内でも有機栽培は増えており、安定した収量・品質確保の生産技術が求められている。引き続き実証・設置による各種技術実証等を関係機関・団体と協力して取り組み、有機栽培技術の確立に努めたい。
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	1	5	0	—	—
活動体制・活動方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	2	4	0	—	—
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	2	4	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	2	0		
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	2	3	1	・対象が143工場で、19工場(20%)がシステムを活用という結果は少し低くないか?来年度以降具体的に何割までっていきたいのか?	・生産者の高齢化により初期設定が進まなかつたことや他アプリ等の活用もあり、活用率が低迷している状況である。本連携システムは南九州市と地域振興事業で開発したものであるため、南九州市を中心に次年度以降も座談会等を通じ、さらなる波及を進めたい。
活動の波及性と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	1	4	1	・スマート利用で茶システムの簡素化は良い。このシステムの今後の記録の一本化等改良の取組予定はないのか? ・南九州市以外の出品茶の取組を対策して欲しい ・有機栽培は今後の収益が下がるのでは?	・本システムは県経済連茶事業部が開発した「ちゃれきくん」と(株)ウォーターセルが開発したアグリノートとの連携によるものである。業者の利害や、開発費等から一本化等の取組は困難であると予想される。 ・枕崎市にも出品茶に取り組む組織があり、関係機関・団体と協力し活動支援している。また、南さつま市でも出品茶への取組を支援している。両市とも今年度の県茶品評会では入賞する等実績をあげている。 ・有機栽培の今後の収益は分からぬが、現時点で国内の消費が伸び悩み、リーフ茶の単価も低い中で、需要の高い有機栽培茶の取組支援は必要と考えている。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	1	4	1		

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 南薩地域振興局農林水産部農政普及課

課題名①		南薩地域の茶業経営の安定とブランド化による稼ぐ力の向上							
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの意見・提言	意見・提言等に対する改善策や普及指導計画への反映等			
		適当	概ね適当	要改善					
課題の設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	5	2	0	・履歴を付けているだけでなく分析もできるシステムの活用は重要である。 ・経営安定のために方向性を示すことも必要では?	・設定した重点農家への支援を進め、内容を精査し方向性を示したい。			
対象の選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	2	0	—	—			
活動体制・活動方法	③関係機関と連携して活動しているか	1	6	0	・技連茶業部会でもシステムの活用促進を取り組みたい	・引き続き、技連茶業部会とも協力し活用を推進していきたい。			
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	4	3	0					
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	4	3	0					
活動の成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	3	3	1	・アグリノートと茶れきくんの連携については、南九州市の結果だけで他の地域への取組が不明であった ・反転処理を行うことでのメリットデメリットの検証、検討がされているのか気になった ・課題は高齢工場(農家)へのデジタル普及ではないか? ・ほ場分析による改植推進と土壤反転機導入で、有機栽培の省力化、収量アップに繋げてください	・本連携システムは地域振興事業で南九州市で開発したものであるため、他市への波及は積極的に実施していない。 ・高齢工場(農家)への導入は大きな課題となっている。関心のある農家に対し、作成したマニュアル等で直接対応したい。 ・有機栽培下での反転処理は無機態窒素が高く推移する傾向があったので施肥効率向上が期待される。次年度は本技術の実証ほ設置等は予定していないが、巡回活動の中で効果確認に努めたい。			
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	1	6	0					
活動の波及性と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	3	4	0	・今後の技術実証の内容を説明して欲しかった ・入力作業は軽減できたが、入力ミスがなくなるよう支援・指導を行って欲しい ・有機栽培に取り組む農業者は増加しているので、安定収量確保対策を継続して行って欲しい ・この取組が、南薩地域だけでなく県全体に広まって欲しい	・今後の技術実証は、普及計画の「有機栽培茶の生産安定」で有機茶生産技術やてん茶生産技術等に取り組み、安定した収量・品質確保につなげたい。			
	⑨結果が十分でないものは今後の対策を考えられているか	0	7	0					

1 南薩地域の茶業経営の安定とブランド化による稼ぐ力の向上

成果の要約

- 1 生産履歴管理システムと営農支援アプリの連携システム導入支援により、新たに2工場が導入し、経営効率化に繋がることへの理解が進んだ。
- 2 10a当たり粗収益は、一・二番茶の粗収益は前年並みであったが、三番茶以降ドリンク原料等の需要が増加し、前年比107%となった。
- 3 有機栽培生産技術実証に取り組み、各市の座談会や研修会で説明し、技術の波及を図った。
- 4 茶品評会では全国・県茶品評会ともに南九州市が産地賞と農林水産大臣賞を獲得した。南九州市は全国茶品評会の産地賞5連覇を達成し、銘柄確立と技術の高位平準化が図られた。

1 対象

- (1) 南薩地区茶業振興会 143工場
- (2) 各市茶業振興会 653戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) 担い手・労働力不足などに対応するため、スマート農業技術の導入やGAP実践による経営体質の強化が必要である。
- (2) 茶価の低迷や資材の高騰などに対応するため、新技術導入や輸出茶など新たな生産体系を確立する必要がある。
- (3) 消費拡大・ブランド力向上のため、出品茶への取組による銘柄確立、仕上げ茶の品質向上、多様な茶種への取組を強化する必要がある。

3 活動の内容及び成果

- (1) ICT技術導入とGAPの推進
生産履歴管理システム「茶れきくん」と営農支援アプリ「アグリノート」の連携システム導入に向け、連携システムを活用した経営改善事例を周知した結果、新たに2工場が導入した。



写真1 アグリノート導入支援

導入した工場では、今まで負担が大きかつた生産履歴や、GAPに関する事務作業の負担が軽減された。また、ほ場・品種毎の粗収益を算出できる機能を活用し、重点的に管理すべきほ場の設定や今後の改植計画指導を行い、経営の効率化に繋がることの理解が深まった(写真1)。

GAPの推進は、手順書の作成支援や、内部監査による是正等及び改善等を指導した。

(2) 生産性の向上

良質な生葉確保のため、土づくりや整枝、防除等の茶園管理を指導し、茶時期は適期摘採、生葉取扱いや品質を落とさない荒茶製造を指導した。

一・二番茶は、前年並みの粗収益であったが、三番茶、秋冬番茶の需要が高かつたこともあり、管内の10a当たりの粗収益は、約31万円で前年比107%であった。

(3) 輸出茶生産体制の強化

ア 生産体制強化

輸出茶研究会員65茶工場を対象に、輸出向け茶園管理、輸出茶相手国の残留農薬基準値一覧、輸出茶の動向などを掲載した「輸出茶研究会だより」を作成、配布し、輸出茶への理解促進を図った。

研究会は発足から約10年が経過し、現在は有機栽培の増加や輸出相手国、茶種が多岐にわたるようになつたため、研究会を解散し、次年度から地区茶業振興会全体を対象に輸出茶生産に向けた取組を支援していくこととなつた。

イ てん茶生産量の拡大

令和5年度に新設あるいは増設したてん茶工場を中心に巡回指導し、生産・販売状

況の把握、生産課題等の収集に努めた。

てん茶の需要が高く価格も好調なことから、数件の工場が、てん茶工場の新設・増設を検討している。

(4) 有機栽培生産技術実証

有機栽培における技術実証は土壤反転による収量・品質向上、耕種的防除による収量・品質向上等を実証した(写真2)。

ア 土壤反転による収量・品質検討

土壤中の無機態窒素を調査した結果、実証区が対照区に比べ、やや高く推移した。一番茶から三番茶までの生葉収量の合計は、両区ほぼ同等であった。



写真2 生葉調査

イ 耕種的防除による病害虫被害軽減検討
最終摘採後から秋整枝までの期間、遅れ芽を数回除去し、芽摘いを良くすることで、病害虫被害低減ができないか検討した。殺菌剤を使用しなかつたが、炭疽病の発生を低減することができた。害虫については、発生が少なく効果が判然としなかった。

(5) 消費拡大・ブランド力向上

ア 産地賞受賞によるブランド化

茶園管理や摘採製造指導(写真3)などに取り組み、令和6年は全国茶品評会、県茶品評会に管内から33点出品した。全国茶品評会では、南九州市が普通煎茶10kgの部で産地賞を5年連続獲得し、農林水産大臣賞も受賞した。

県茶品評会では、南九州市が産地賞、農林水産大臣賞を獲得し、枕崎市、南さつま市が出品した茶も全て入賞した。



写真3 茶品評会製造指導

イ 仕上げ茶の品質向上と消費拡大支援
知覧茶の品質向上を図るため、流通部会での品質改善指導を行った(写真4)。青年組織に対して仕上げ茶製造と単一品種による消費者ニーズの把握に取り組んだ。また、消費拡大に向けて、お茶入れ教室や知覧茶アンバサダー講座での支援を実施した。



写真4 流通部会での仕上茶審査

4 今後の課題

- (1) スマート農業技術を活用した生産工程情報管理などの実証・普及と国際水準GAP認証の推進
- (2) 有機栽培やてん茶の安定した品質・収量確保技術の検討
- (3) 良質茶生産技術の習得と仕上げ茶の品質向上によるブランド確立

5 担当した普及職員(○はチーフ)